

令和5年度東日本大震災アーカイブシンポジウム

—震災遺産と地域文化の継承を目指して—

開催のお知らせ

国立国会図書館と東北大学災害科学国際研究所は、「東日本大震災アーカイブシンポジウム」を開催いたします。

東日本大震災に関するアーカイブの構築が各地で進む中、震災の痛手が深く復興に時間を要している地域においては、アーカイブの構築、公開は途に就いたばかりです。

本シンポジウムでは、東京電力福島第一原発事故による避難指示区域の解除が進み、今後アーカイブの構築が期待される地域から、様々な形で行われる震災記録と地域の歴史文化の伝承のための取組について報告し、各自治体の現状や問題意識を共有します。

最後に、登壇者全員で、町民の避難が終わらず、また、地域の景観が大きく変わろうとしている中で、震災の記録・記憶を含めた地域の歴史や民俗文化を継承する上での課題について議論します。

○日時及び開催方法

日時：令和6年1月8日（月曜・祝日）13時から16時まで（開場：12時30分）

会場：東北大学災害科学国際研究所多目的ホール

（仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1）

開催方法：有観客による開催のほか、会場の映像をウェブ会議システム（Zoom）を用いて事前登録者に対して同時配信します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により、オンライン開催のみへの変更があり得ます。

○申し込み方法

(1)定員：会場 120名、オンライン 300名

（先着順。定員に達した時点で申込み受付を終了します。）

(2)参加費：無料

(3)申込み：下記 URL のシンポジウム案内にある申込みフォームからお申込みください。

<https://www.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/symposium/20240108/>（みちのく震録伝）

問合せ先：東北大学災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ
研究分野（担当：柴山）

電話番号：022(752)2099 E-mail アドレス：archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

○プログラム（敬称略）

（1）オープニング

開会の挨拶

東北大学災害科学国際研究所所長 栗山 進一

趣旨説明

東北大学災害科学国際研究所教授 今村 文彦

（2）事例報告

震災後収集資料の整理・活用における現状と課題

大熊町教育委員会 教育総務課 副主任学芸員 芋坪 祐樹

とみおかアーカイブ・ミュージアムの歴史資料と震災遺産の保存活用

富岡町教育委員会 生涯学習課 課長補佐 三瓶 秀文

震災遺構浪江町立請戸小学校が伝えたいこと、今後の課題について

浪江町教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育係 主査 渡邊 祐典

双葉町における震災資料保全の取り組みについて

双葉町総務課長 兼 秘書広報課長 橋本 靖治

（3）進捗報告

これからのアーカイブに望むこと—ポータルサイト「ひなぎく」の経験から—

国立国会図書館電子情報部主任司書 井上 佐知子

震災アーカイブの意義について—みちのく震録伝の経験から—

東北大学災害科学国際研究所准教授 柴山 明寛

（4）パネルディスカッション

震災遺産と地域文化の継承を目指すなかでの課題について

（進行）柴山 明寛 （パネリスト）上記報告者全員

（5）クロージング

閉会の挨拶

井上 佐知子